

平成30年7月豪雨による内水被害

7月23日
9時00分現在

○内水氾濫による浸水被害が、西日本を中心に**19道府県95市町村**で発生。

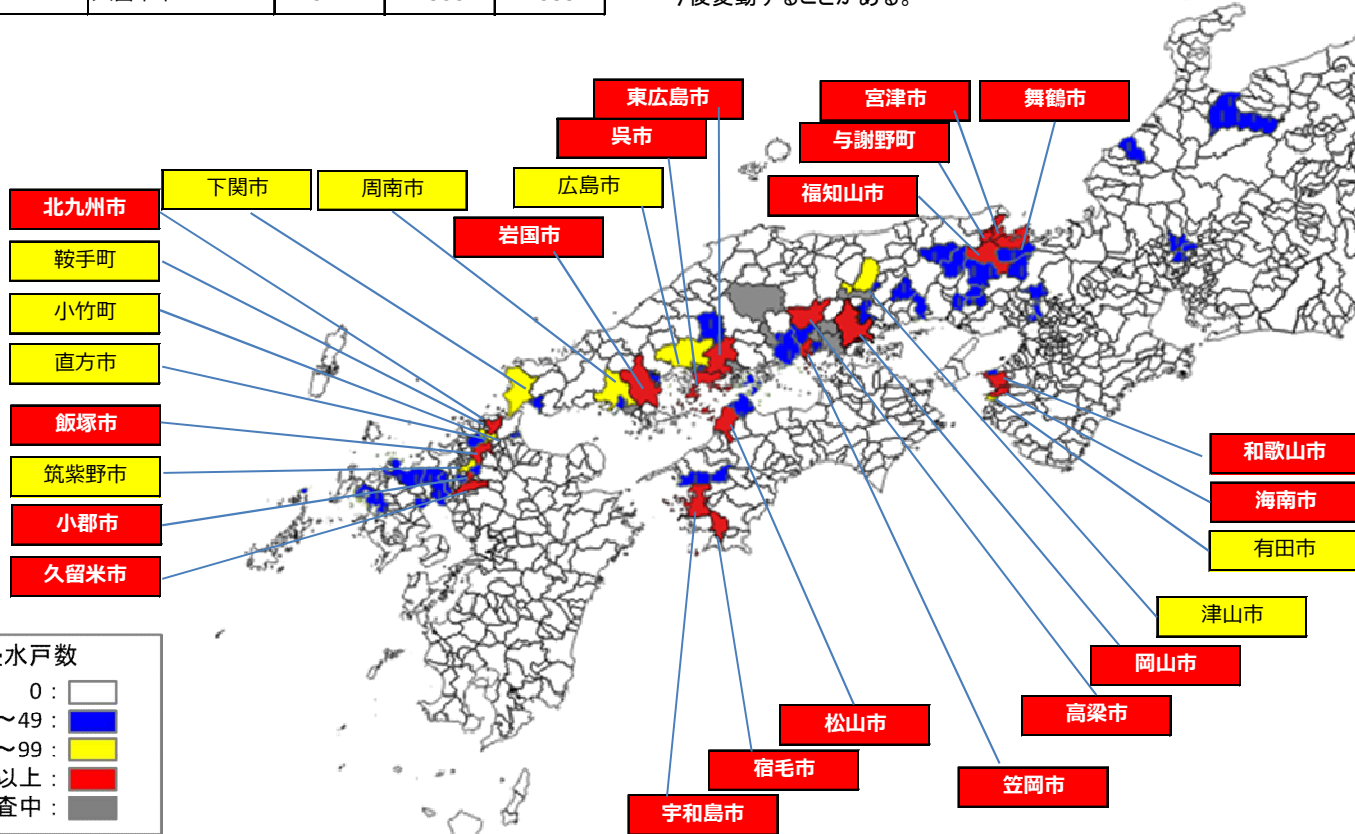
○主な内水被害都市(被害戸数※500戸以上)

都道府県	市	被害戸数		
		床上(戸)	床下(戸)	合計
京都府	福知山市	98	672	770
京都府	舞鶴市	205	672	877
岡山県	岡山市	1687	3728	5415
広島県	呉市	360	170	530
愛媛県	宇和島市	1478	519	1997
福岡県	久留米市	322	1533	1855

○内水被害発生団体※ (内は市町村数)

北海道(3)、富山県(1)、石川県(1)、岐阜県(2)、愛知県(1)、京都府(9)、大阪府(4)、兵庫県(8)、和歌山県(3)、岡山県(13)、広島県(13)、山口県(6)、香川県(1:道路冠水のみ)、愛媛県(6)、高知県(1)、福岡県(14)、佐賀県(6)、長崎県(1)、沖縄県(2)

※被害戸数及び被害発生団体は、地方公共団体からの報告による。
現在も調査中であり、外水被害を含む場合があることから、今後変動することがある。



主な内水被害発生団体



平成30年7月豪雨による土砂災害の発生状況

8月1日
10時30分現在

土砂災害発生件数
(7月2日以降を集計)

(都道府県報告)

1道2府28県

1,515件

土石流等：466件

地すべり：50件

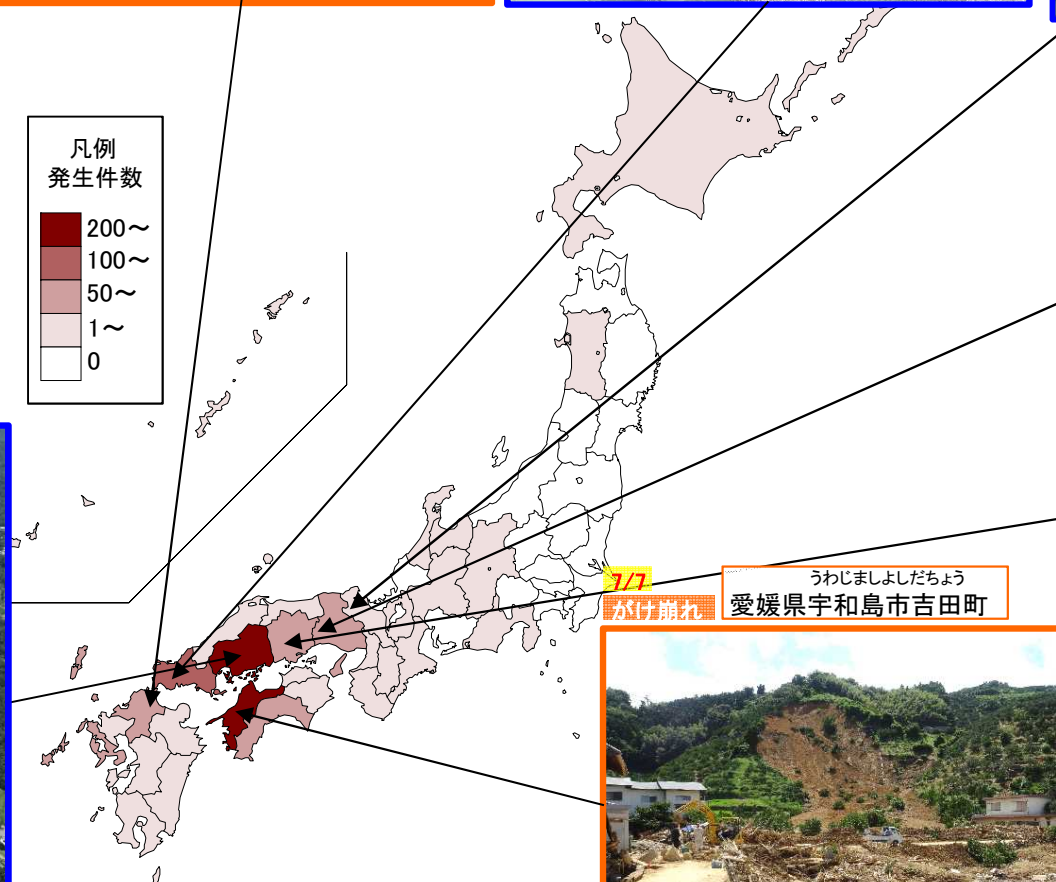
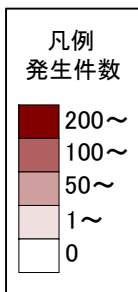
がけ崩れ：999件

【被害状況】

人的被害：死者 119名
負傷者 22名
人家被害：全壊 64戸
半壊 70戸
一部損壊 198戸

※近10年(H20~29)の平均土砂災害発生件数1,106件/年

※近10年(H20~29)の最大土砂災害発生件数1,514件/年



平成30年7月豪雨による広島県の土砂災害発生状況

8月1日
10時30分現在

土砂災害発生件数
(7月2日以降を集計)

(広島県報告)

471件

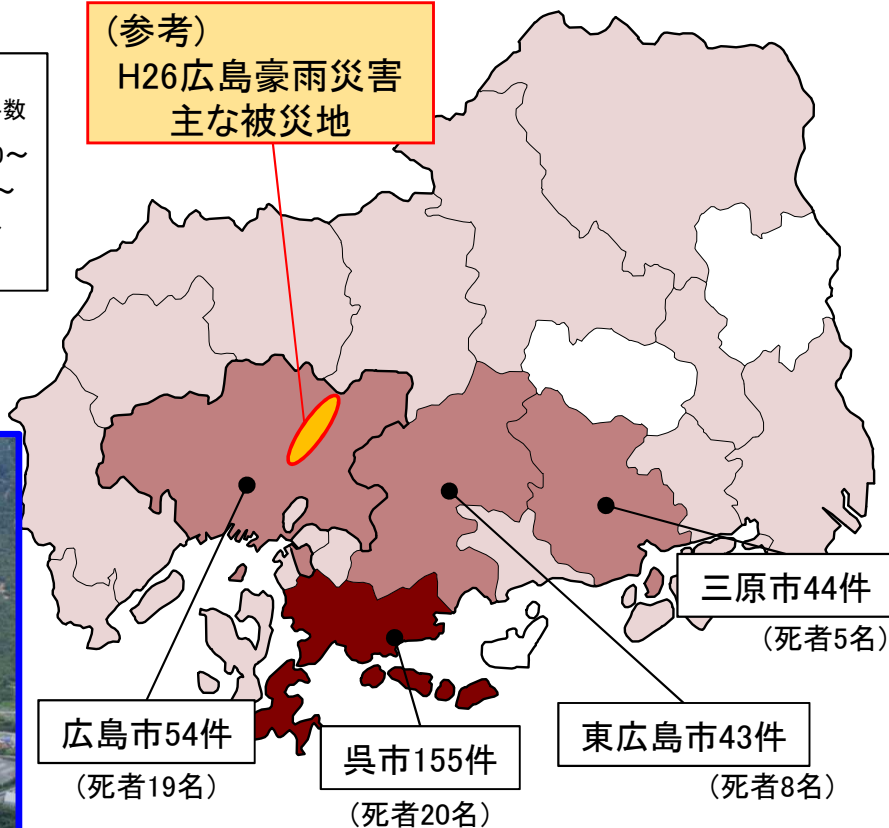
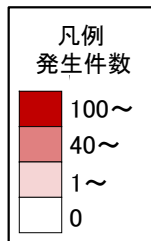
土石流等 : 315件
地すべり : 1件
がけ崩れ : 155件

【被害状況】

人的被害 : 死者 87名

広島県内の市町村別土砂災害発生状況

(参考)
H26広島豪雨災害
主な被災地



広島県の被災現場における工事進捗状況

7月30日
17時00分現在

○応急工事の状況

あさきたく くちみなみ
広島市安佐北区口田南3丁目

導流工・流路工完成

工所用進入路
7/13(金)着手、7/24(火)完了
流路工(大型土嚢) 7/23(月)完了
導流工(大型土嚢) 7/24(火)完了、
ワイヤーセンサー
7/16着手、7/28(土)運用開始
監視カメラ 7/28(土)設置完了
強靱ワイヤーネットの設置に着手予定

流路工の完成



あさきたく くちみなみ
広島市安佐北区口田南5丁目

導流工完成

工所用進入路
7/13(金)着手、7/18(水)完了
導流工(大型土嚢) 7/22(日)完了
流路工(大型土嚢) 7/30(月)完了
ワイヤーセンサー
7/16着手、7/28(土)運用開始
監視カメラ 7/28(土)設置完了
強靱ワイヤーネットの設置に着手予定

導流工の流路部分が完成



うまき
広島市東区馬木 進入路・流路工完成

工所用進入路・流路工
7/13(金)着手、7/17(火)完了
既設堰堤の除石 7/18(水)完了
ワイヤーセンサー
7/17着手、7/28(土)運用開始
監視カメラ 7/28(土)設置完了
強靱ワイヤーネットの設置に着手予定

流路工完成状況



広島市東区福田1丁目 流路工延伸中

工所用進入路
7/13(金)着手、8/7(火)完了見込
ワイヤーセンサー
7/17着手、7/28(土)運用開始
監視カメラ 7/28(土)設置完了
工所用進入路が完成後、
流路工(大型土嚢)8/7完了見込、
導流工(大型土嚢)8/10完了見込、
強靱ワイヤーネットの設置に着手予定

流路工の延伸



○監視カメラの設置状況

府中町榎川	7/12(木)	設置済み
坂町水尻	7/28(土)	設置済み
坂町小屋浦	7/27(金)	設置済み
坂町総頭川	7/13(金)	設置済み

えのき
府中町榎川 設置完了



そうず
坂町総頭川 設置完了



平成30年7月豪雨による下水道施設の被害状況

7月25日
13時00分現在

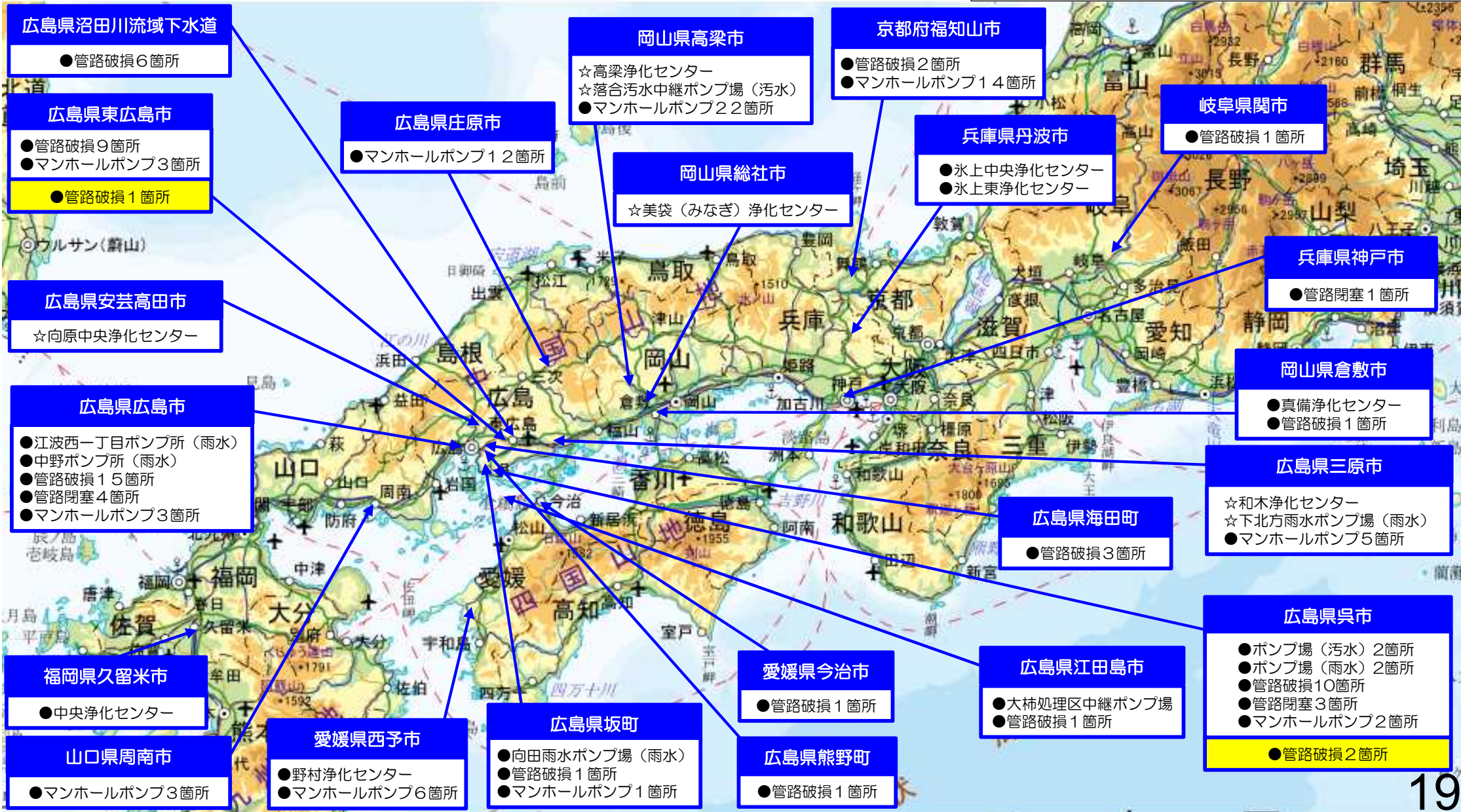
- 処理場、ポンプ場19箇所が浸水により機能停止 (19箇所では応急復旧済み)
- 道路陥没、土砂流入による管路破損等62箇所 (59箇所では応急復旧済み)
- 浸水によるマンホールポンプの機能停止71箇所 (71箇所では応急復旧済み)

凡例

応急復旧済

現在対応中

☆施設：日本下水道事業団が復旧支援。



平成30年7月豪雨に伴う洪水に対して、これまでの河川整備が効果を発揮(山国川)

速報版

○山国川中流部では、平成24年7月3日、14日洪水と連続して約200戸の家屋浸水被害が発生したため、堤防整備や河道掘削等を「山国川床上浸水対策特別緊急事業」により集中的に実施し、平成30年6月に事業が完了。

○今回洪水では、12時間最大雨量が平成24年洪水に迫った降水量だが、山国川では家屋の浸水被害を防止。

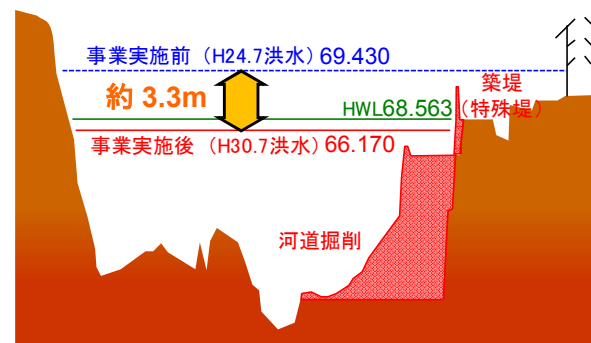


床対事業整備状況

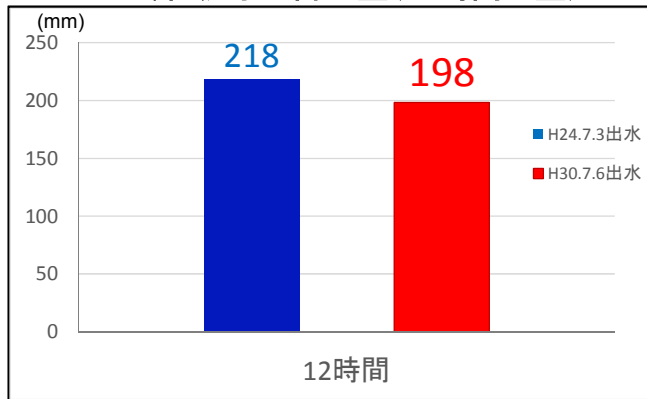


床上浸水対策特別緊急事業の概要

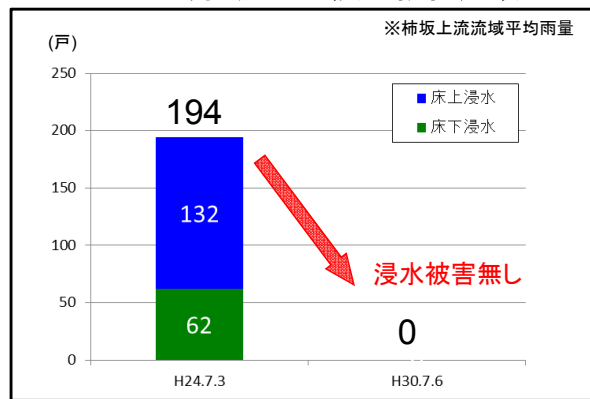
- 事業内容: 築堤、護岸、河道掘削、樹木伐採等
- 期間: 平成25年度～概ね5年間
- 全体事業費: 約74億円



■H24と今回洪水の降雨量(12時間雨量)



■H24と今回洪水の浸水被害戸数



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

平成30年7月豪雨に伴う洪水に対して、これまでの河川整備が効果を発揮(桂川 久我地区) 速報版

- 桂川では、平成25年台風18号を契機に「桂川緊急治水対策」として、約64万m³の掘削を実施。
- これまでに実施した河道掘削により、久我地区(桂川7.0k)において水位を約0.5m低減させ、計画高水位以下で安全に流すことが可能となり、堤防決壊を回避し、決壊時に想定される浸水被害(約850ha)を解消。

位置図



平成30年7月豪雨のピーク時写真



羽束師橋下流の掘削状況



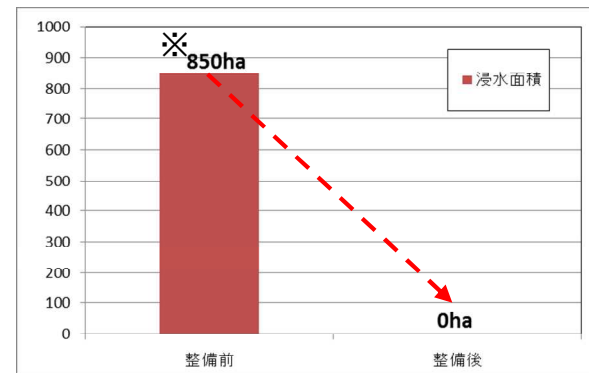
羽束師橋上流の掘削状況



久我地区下流



浸水被害効果

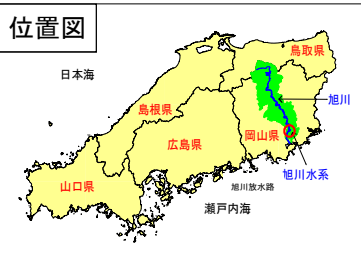


※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

平成30年7月豪雨に伴う洪水に対して、これまでの河川整備が効果を発揮(旭川)

速報版

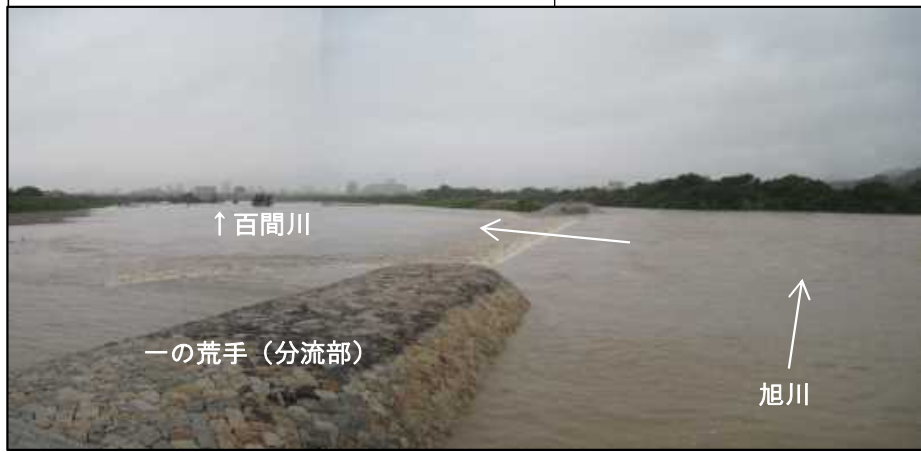
- 梅雨前線の影響により、旭川流域の流域平均累加雨量は323.6mmに達し、旭川放水路分流部の上流側に位置する下牧水位観測所では氾濫危険水位を超過。7月6日(金)には、分流部の「一の荒手」の整備の概成後、初めて洪水を放水路へ分派。
- 今回の洪水では、旭川放水路が無かった場合には、計画高水位を超過し、岡山市街地(JR岡山駅含む)の約450haの浸水被害が発生するおそれがあったが、**今回の整備を含む分流によって旭川の水位を約1.5m低下させ、浸水被害を防止。**



旭川放水路(百間川) 分流部

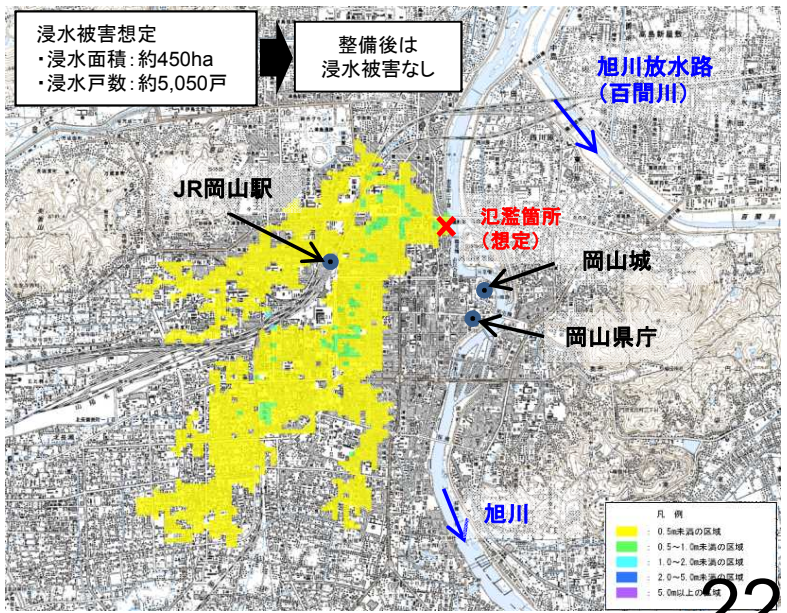


旭川放水路(百間川) 分流状況(7月6日(金))



今回、最大で分流前4,500m³/sのうち、1,300m³/sを放水路へ分流

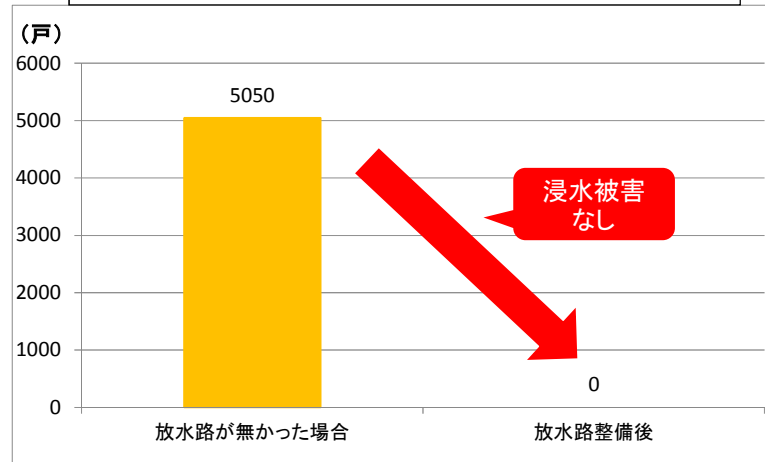
今回の洪水による旭川放水路が無かった場合の浸水想定区域



水位低減イメージ(旭川)



今回の洪水による整備前後の浸水被害の比較(浸水戸数)



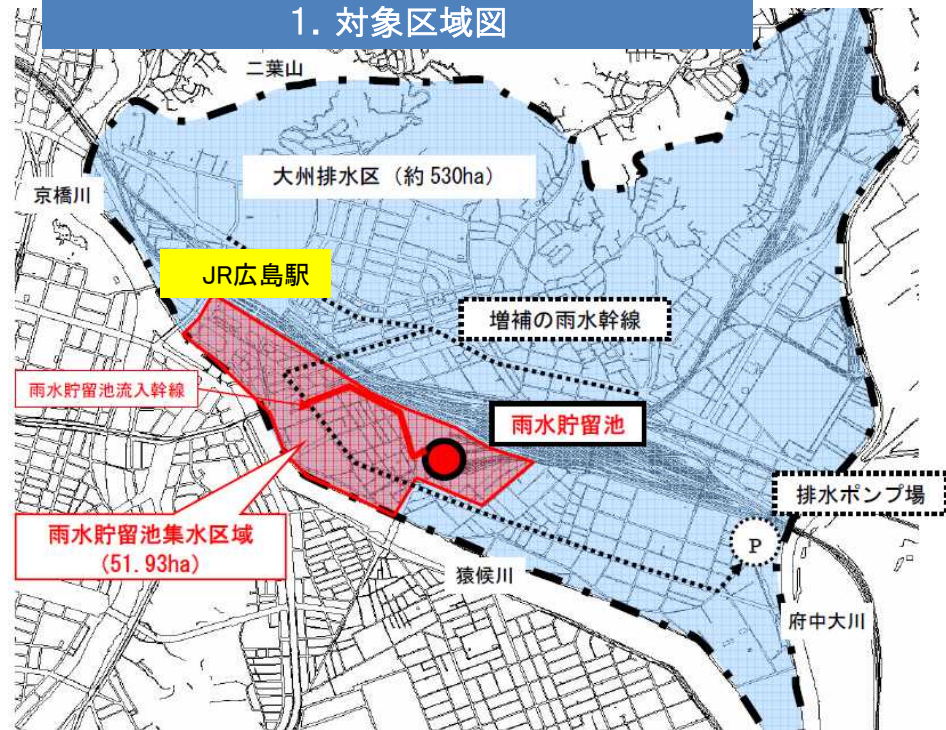
※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

平成30年7月豪雨における浸水被害の軽減効果について(広島市広島駅周辺地区)

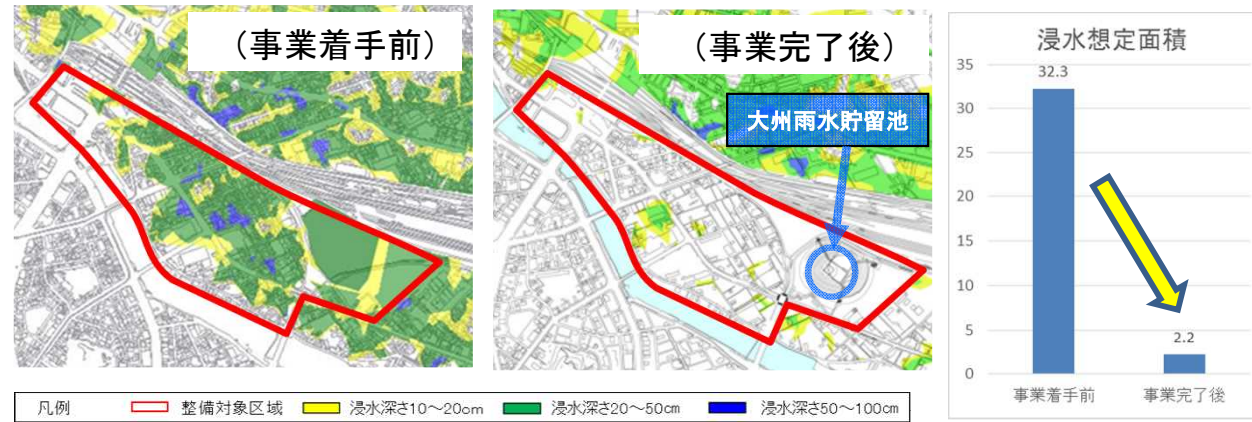
速報版

- 都市機能が集積するJR広島駅周辺地区では、かつて、1時間 20 mm程度の雨で浸水が発生。
- 広島市民球場の建設に合わせ、広島駅周辺の浸水対策事業として、10年に1回程度降る非常に激しい雨(1時間降雨量53mm相当)に対応できるよう、**雨水貯留池(貯留量14,000m³)**などの施設整備を実施
- 平成30年7月豪雨(時間最大雨量46mm、連続雨量391mm)では、**当地区の床上・床下浸水被害の報告は0件(速報値)**。

1. 対象区域図



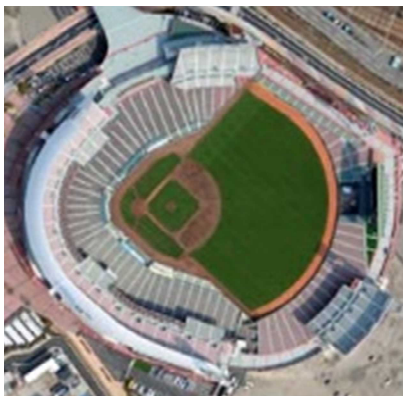
2. 浸水シミュレーションによる浸水対策効果の検証 [計画降雨53mm/hr]



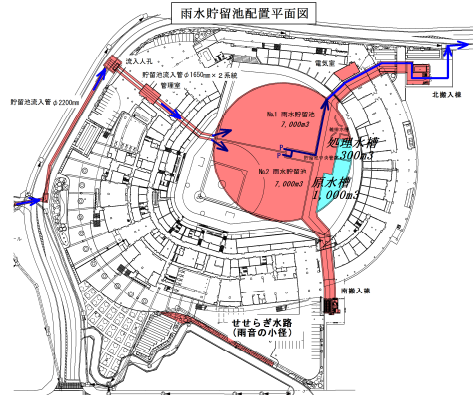
3. 平成30年7月降雨における貯留状況

最大貯留量: 14,000m³
H30年7月豪雨: 13,100m³貯留
(時間最大雨量46mm 連続雨量391mm)

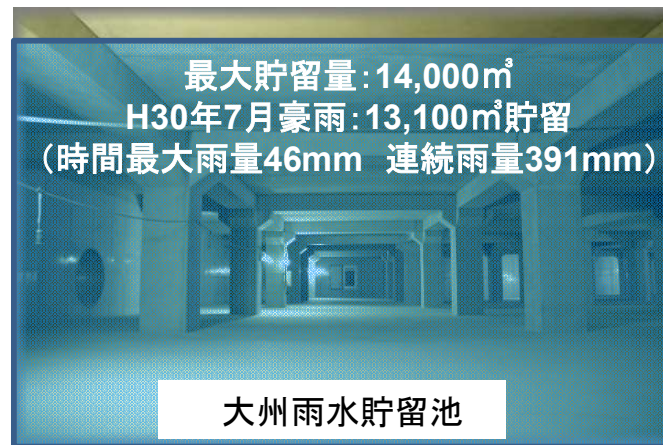
※平成21年4月の供用開始以降、雨水貯留池への流入実績は26回(概ね3回/年)であり、本事業は当地区の浸水被害の軽減に大きく寄与。



大州雨水貯留池 上部利用



大州雨水貯留池

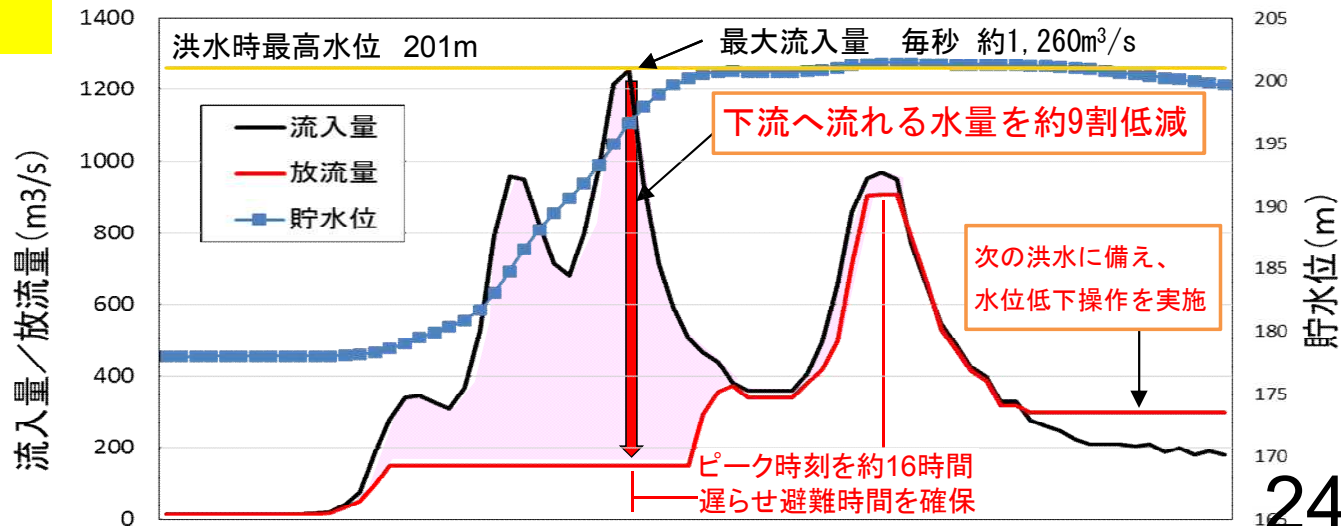
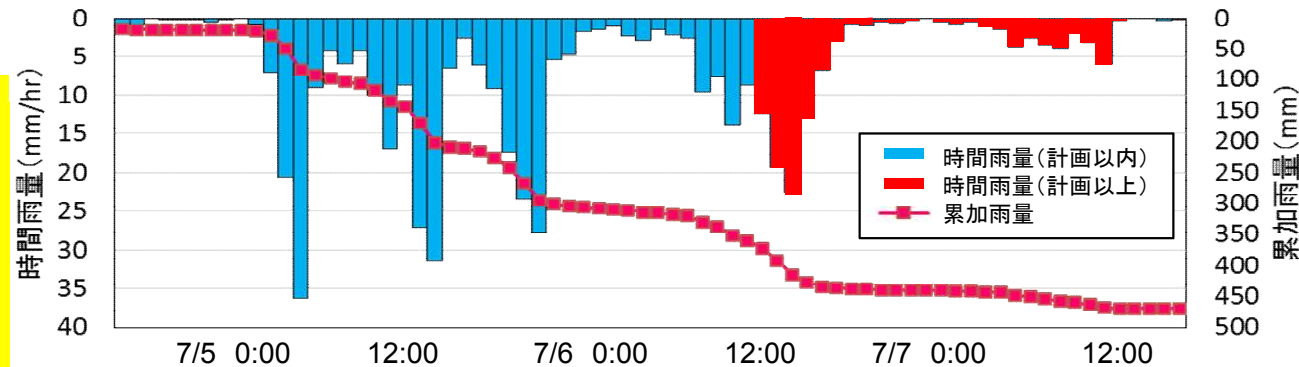
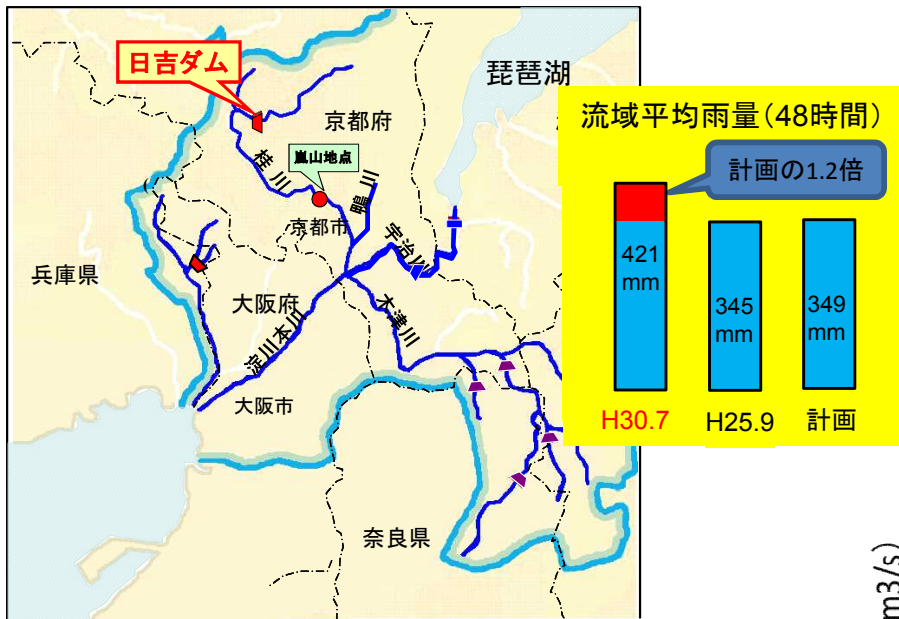


大州雨水貯留池

淀川水系桂川における日吉ダムの洪水調節

[速報版]

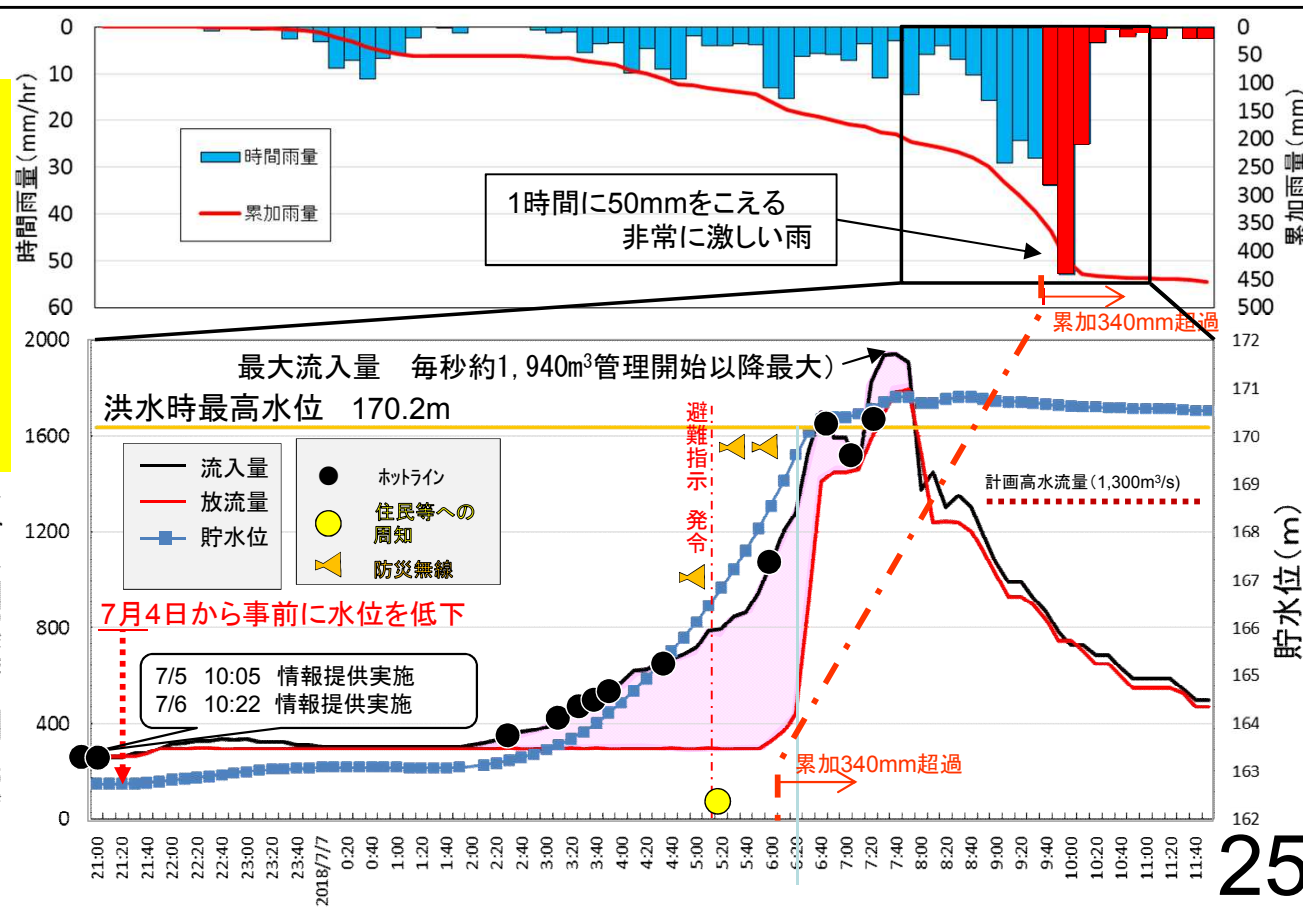
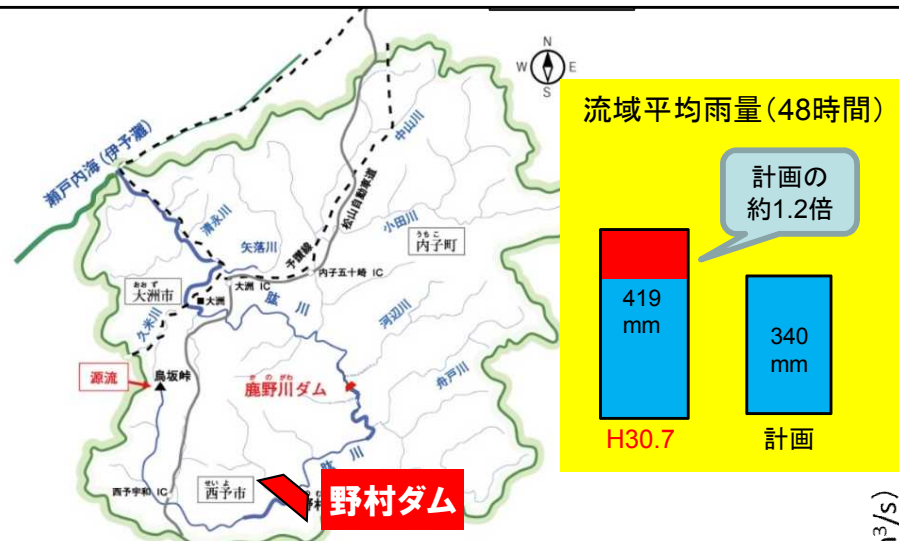
- 活発な梅雨前線の影響により、断続的に4回の豪雨が発生し、2日間の累加雨量は観測史上最大。
 - 河川流量が最大となった3回目の豪雨時には、日吉ダムの洪水調節によって約9割の流量低減。
 - 4回目の豪雨前に日吉ダムは満杯に近づいたが、それまで河川水位を大幅に低下させていたことや、その後も洪水調節を継続したことから、亀岡市や京都市嵐山付近の被害を大幅に軽減。
 - また、日吉ダムの洪水調節により、洪水ピーク時刻を大幅に遅らせたことや、河川水位予測の迅速な情報提供により、避難時間を確保することに貢献。
- ※ 5年前に今回と匹敵する(今回の方が大きい)豪雨が発生し大規模な浸水被害が発生したが、その後の緊急治水対策の結果、今回は大幅に被害を軽減。



洪水貯留開始直後の貯水池の状況 (7月5日8時頃) 洪水時最高水位に近づく貯水池の状況 (7月6日10時頃)

肱川水系における野村(のむら)ダムの洪水調節

○活発な梅雨前線の影響により、野村ダム上流域の2日間の累加雨量は計画の降雨量を超過。
 ○野村ダムでは、洪水3日前の7月4日から事前に水位を低下させ、通常の洪水調節容量350万m³に250万m³を加えた600万m³の容量を確保しており、洪水時には650万m³を貯留。
 ○7月6日22時10分に洪水調節を開始する旨を関係機関に連絡し、7日3時11分にその時点のダムの操作に関する予測情報を連絡し、3時37分に「6時20分頃には異常洪水時防災操作を開始する見込み」である旨を管理所長から西予市野村支所長にホットラインにより伝達し、5時10分には西予市より避難指示の発令を伝える防災無線により各戸及び屋外のスピーカーにより繰り返し放送されている。5時15分には住民への周知のため、警報所のサイレンの吹鳴、警報所及び警報車のスピーカーによる注意喚起を実施している。



砂防堰堤が土石流・流木を捕捉(兵庫県宍粟市波賀町小野)

災害発生日：平成30年7月6日

おのがわ

堰堤名：小野川堰堤

堰堤形式：透過型砂防堰堤

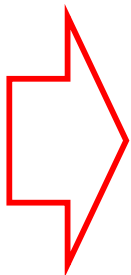
捕捉状況：土石流・流木捕捉量

約 8,000m³



土石流発生後

土石流発生前



流木捕捉効果の高い透過型堰堤により、**土砂と流木を捕捉**

砂防堰堤が土石流・流木を捕捉（広島県安芸郡熊野町）

たきがたにがわ

○ 広島県安芸郡熊野町の滝ヶ谷川において広島県の砂防堰堤が土石流・流木を捕捉し、下流の人家等を保全。

堰堤の緒元
堤高=14.0m 堤長=66.0m
平成3年2月竣工

下流の人家を保全



7月14日 アジア航測株式会社 撮影

TEC-FORCEによる支援(平成30年7月豪雨)

[8月1日時点]

TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)を全国から派遣し、災害応急対応を支援
(**のべ9,345人・日**(7/3~) 日最大派遣数 607人(7/13))

- 岡山県倉敷市真備町では24時間体制で緊急排水を実施し、約1,200haの浸水を3日で解消
- 被災した公共土木施設の被災状況を早期に把握し、迅速な激甚災害の指定(7月24日閣議決定)に貢献
- 台風第12号の接近に備え、甚大な土砂災害が発生した箇所等で二次災害防止対策を実施
- 散水車や路面清掃車等を派遣し、防塵対策や給水支援を実施
- 土砂災害等により市街地や道路・河川等に堆積した土砂や流木・がれき等の撤去を支援 等



全国の排水ポンプ車23台を集結し24時間で排水
【岡山県倉敷市真備町】



土砂災害箇所における被害状況調査
【広島県安芸区】



首長への調査結果報告と技術的助言
【高知県大豊町】



流路工整備により二次災害を防止
【広島市東区】



散水車による防塵対策
【岡山県倉敷市真備町】

生活用水の給水作業
【愛媛県宇和島市】

散水車による給水と散水支援活動



市街地の土砂等の撤去作業
【広島県坂町】

大規模災害時の災害査定効率化(簡素化)及び事前ルール化について

- 【背景】
- ・大規模災害が発生した際、**インフラの迅速な復旧が急務**
 - ・これまでの大規模災害では、災害査定をスピーディーかつ効率的に進めるため、**様々な「査定の効率化(簡素化)」を実施。**
 - ・しかしながら、個別の災害毎に効率化(簡素化)の内容を決めていたため**決定までに約1箇月を要していた。**
 - ・そのため、南海トラフ地震、首都直下地震、スーパー台風等の大規模災害に備え、より迅速に**災害査定の効率化(簡素化)の 具体的内容を決定することが必要。**

【事前ルール化】

- ・**カテゴリーS**: 激甚災害(本激)に指定又は指定の事前公表がされた災害で、かつ、**緊急災害対策本部(政府)が設置された災害**
(過去の事例: 東日本大震災(H23))
- ・**カテゴリーA**: 激甚災害(本激)に指定又は指定の事前公表がされた災害
(過去の事例: 熊本地震(H28)、台風12号(H23)、新潟県中越地震(H16)、阪神淡路大震災(H7)などを含む14災害)
- **カテゴリーS・Aの災害の要件を満たした場合、以下の効率化(簡素化)を実施**

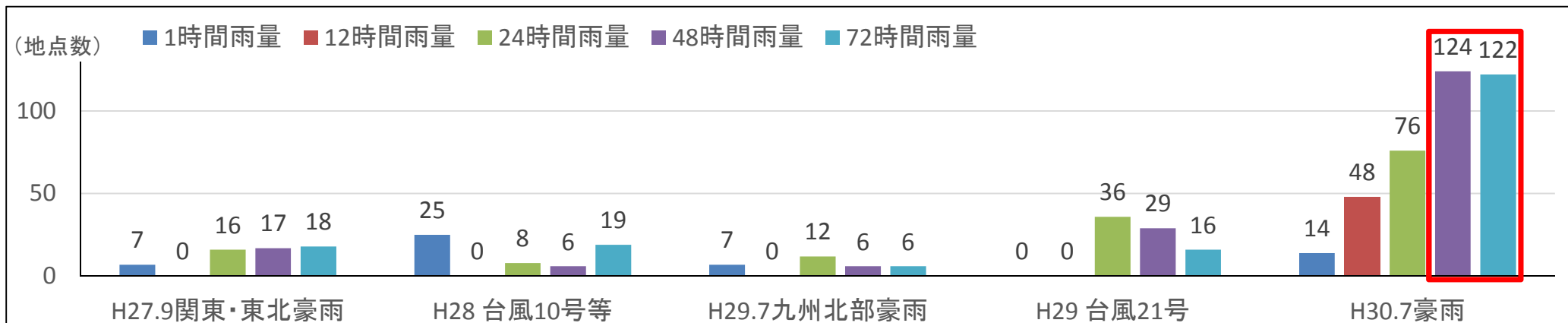
災害査定の手続きの効率化(簡素化)の主な内容

- ① **机上査定限度額の引上げ**(カテゴリーSは被害件数の概ね9割、カテゴリーAは被害件数の概ね7割となる金額まで引き上げる)
(原則: 300万円) (参考: 過去の事例 カテゴリーS 5,000万円、カテゴリーA 1,000万円)
: 会議室で書類のみで行う机上査定の対象限度額の引上げにより査定期間を短縮
- ② **採択保留額の引上げ**(カテゴリーSは採択保留件数の概ね9割、カテゴリーAは採択保留件数の概ね6割となる金額まで引き上げる)
(原則: 4億円) (参考: 過去の事例 カテゴリーS 30億円、カテゴリーA 8億円)
: 現地で決定できる災害復旧事業の金額の引上げにより早期着手が可能
- ③ **設計図書簡素化**
: 設計図書の作成において航空写真や標準的な断面図等の活用により測量・設計期間を短縮 など

(参考)平成30年7月豪雨について

- 平成30年7月豪雨では、多くの観測地点で観測史上1位を更新したが、特に48時間雨量、72時間雨量で多くの地点で観測史上1位を更新した。
- 特に48時間雨量では、京都府・岡山県・広島県・愛媛県の4府県においては、半数以上の地点で観測史上1位を更新した。

■観測史上1位を更新した観測地点数



■観測史上1位を更新した観測所の割合

